

製品名: GRF-1 ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab11758

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | IHC, ICC/IF, ELISA |
| 反応性 | ヒト、マウス、ラット |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:10000

分子量

抗原情報

| | |
|--------------|---|
| 遺伝子名 | ARHGAP35 ARHGAP35; GRF1; GRLF1; KIAA1722; Rho GTPase-activating protein 35; Glucocorticoid |
| 別名 | receptor DNA-binding factor 1; Glucocorticoid receptor repression factor 1; GRF-1; Rho GAP p190A; p190-A |
| 遺伝子 ID | 2909.0 |
| SwissProt ID | Q9NRY4 |
| 免疫原 | 抗血清はヒト GRF-1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1071-1120 |

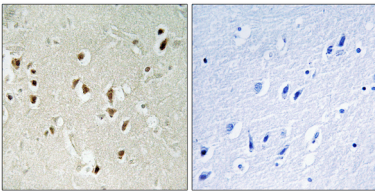
背景

ヒトグルココルチコイド受容体 DNA 結合因子は、グルココルチコイド受容体遺伝子 (hGR 遺伝子) のプロモーター領域に結合し、グルココルチコイド受容体の転写を抑制する。cDNA 配列から推定されたアミノ酸配列には、ジンクフィンガーに特徴的な 3 つの配列モチーフと、ロイシンの代わりに 1 つのシステインが結合したロイシンジッパーを示唆する 1 つのモチーフが存在する。GRLF1 は、野生型 hGR 遺伝子の発現の相対的ダウンレギュレーションを促進する。生化学的解析から、GRLF1 との相互作用は配列特異的であり、GRLF1 の転写効率は特定の配列モチーフとの相互作用を介して制御されることが示唆されている。発現レベルはグルココルチコイドによって制御される。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],機能: シス作用性調節配列 5'-GAGAAAAGAACTGGAGAACTC-3'に結合し、グルココルチコイド受容体の転写を抑制する。網膜の発達および変性の調節に関与する可能性がある。p21-ras からのシグナルを核へ伝達し、ras GTPase 活性化タンパク質 (GAP) を介して作用する可能性がある。腫瘍抑制因子としても作用する可能性がある。PTM: DNA 損傷時にリン酸化される (おそらく ATM または ATR による)。,PTM: チロシンリン酸化される。類似性: 1 つの Rho-GAP ドメインを含む。類似性: 4 つの FF ドメインを含む。サブユニット: p120GAP と相互作用する。,

研究分野

接着斑、白血球の内皮透過移動、アクチンと細胞骨格の調節、

画像データ



GRF-1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。